（第２次 竹田市総合計画より）

資料５

第４章　リーディング施策
10のリーディング施策

リーディング施策は、人口減少が進む本市として、この現状にあらがう施策と、人口減少時代に合わせていく施策です。各分野横断的に取り組む必要性の高い施策が多く、庁内において連携して取り組むとともに、前期基本計画の５年間で具体的に検討・準備・実施に向けて取り組んでいくこととします。

（1）人口減少時代に“ あらがう” 施策

		資料４（資料１）対応番号
その１ ワーケーションと移住支援	アクセスのよくなる交通網と温泉や風光明媚な自然環境を活かした観光地として、ワーケーションを推進し、訪れた人たちが関係人口にとどまらず、移住につなげていくような仕掛けを講じていきます。	20
その２ 自立生活促す健康づくり	スマートウォッチやスマホアプリなどを活用し、ウォーキングや健康状態の確認が行えるようなツールを積極的に活用し、市民の健康力向上を支援します。また、市内企業従業員等も対象にし、働く世代の健康づくりを支援します。	22, 23, 25, 26
その３ 新たな企業誘致	半農半X やテレワーク＋αの仕事など、働き方が多様化しています。従来の常識にとらわれず、遊休施設の活用や空き店舗の活用などを推進し、通信インフラの整備等を行いながら、広大な土地などが不要な新しい企業誘致を推進します。	(31)
その４ 子育てしやすい環境づくり	少子化対策は関係機関と歩調を併せて取り組んでいきます。国の調査では、理想の子ども数を持たない理由として「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」と回答した人が多くなっています。共働き世帯が増加し、保育のニーズや就学後の過ごせる場のニーズが高まっています。子育てと仕事が両立できる環境整備や子育て世帯の生活の安定や子どもの貧困対策に取り組んでいきます。	14, 46
その５ リカレントとリスキリング	リカレント(学びなおし)とリスキリング(「新しい職業に就くために、あるいは、今の職業で必要とされるスキルの大幅な変化に適応するために、必要なスキルを獲得する／させること」)を推進できる環境を整備し、文化の薫りのする、新しい産業が内発される地域を目指します。	―

（2）人口減少時代に“ あわせる” 施策		資料４ （資料１） 対応番号
その１ 廃校の活用	少子化に伴う学校統廃合を進めるとともに、廃校の活用方法を検討します。近年では廃校の活用に関する好事例が数多くあり、こうした事例調査を行うとともに、“あらがう” 施策への活用も視野に入れつつ、地域とともに施設の有効活用を図ります。	63
その２ インフラの強靭化とリサイズ	道路・水道や公共施設等のインフラについては、老朽化が進んでいます。自然災害に強いインフラに更新していくことが必要で、こうした市民生活を支える重要な取組を計画的に実行していきます。また、人口減少に合わせたインフラのリサイズについても検討します。	93, 103, 104, 105, 106, (62)
その３ 竹田型コンパクトシティ	「竹田市都市計画マスタープラン」では、“竹田型コンパクトシティの実現” を目指しています。３種類の拠点地区とそれを結び付けるネットワークを構築し、誰もが暮らしやすい生活が送れる利便性の高い都市づくりを推進します。	(56), (60)
その４ 行財政改革	行財政改革では、削減や節約などコストを抑制することはもとより、ふるさと納税や資産運用などを積極的に推進します。また、税収増に向け地域産業がもうかる仕組みを関係者と協力して検討し、支援します。今後デジタル化や成熟社会において、経験と新しい発想を融合し、時代にふさわしい人材育成に力を入れていきます。	124, 125, 127
その５ 公共交通の改革	高齢者の運転免許証の返納が増加する中、公共交通の利便性は定住のための重要な要素となっています。単なる人の移動手段にとどまらず、医療や農業、観光など、多様な目的と連携させて、利用しやすい環境をデジタル化技術等を活用しながら構築していきます。	94, 96, (59), (60)